



2019年3月期 中間決算説明会

東京エレクトロン デバイス株式会社

2018年11月7日



決算報告

取締役 佐伯 幸雄

■ 期初予想から売上高 利益ともに増加
10月15日 中間業績予想を上方修正

■ 前年同期比で売上高は減少も利益は増加

■ 中間配当を増配 期末配当も増配予定

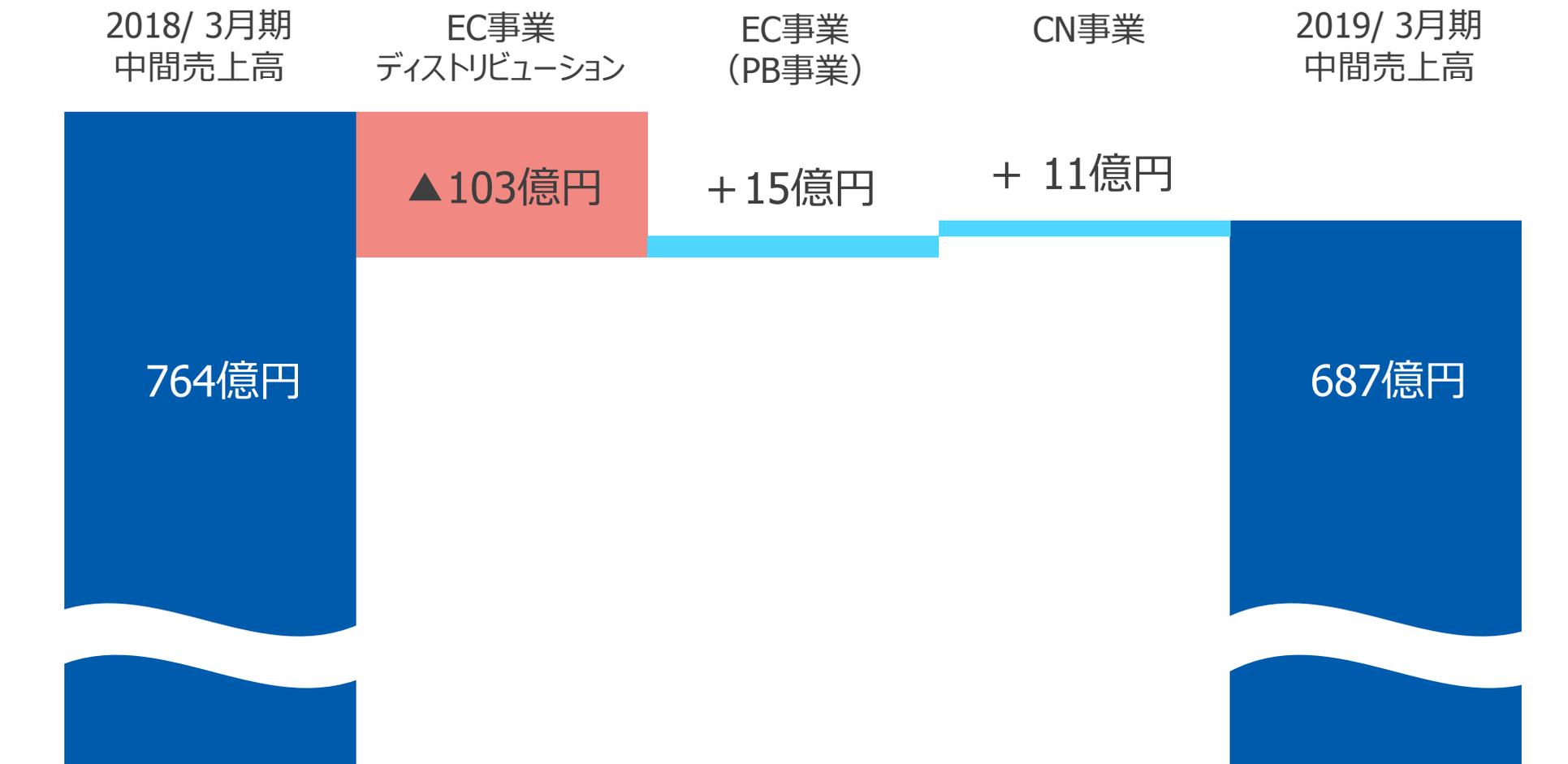
■ 7月2日 株式会社ファーストを100%子会社化
2019年3月期第2四半期より業績に反映

業績概要 前期比

	2018年3月期 中間	2019年3月期 中間	増減額	2019年3月期 中間 期初予想
売上高	76,431	68,765	▲7,666	68,500
売上原価	68,151	59,381	▲8,770	
売上総利益	8,279	9,383	1,104	
販管費	7,273	7,682	409	
営業利益	1,006	1,701	694	
営業外収益	71	69	▲1	
営業外費用	94	380	285	
経常利益	983	1,390	407	1,000
中間純利益	699	894	194	650
従業員数	1,093名	1,202名	109名	

※ 中間純利益は親会社株主に帰属する中間純利益

業績概要 売上高増減



セグメント区分では、PB事業はEC事業に含まれております。
PB事業とは、プライベートブランド事業の略称であり、従来の呼称である自社ブランド事業を呼称変更しております。
PB事業には、株式会社アバール長崎 株式会社ファーストを含んでおります。

セグメント別 売上高・利益

- EC事業 アナログ・デバイス社との代理店契約解消により減収もPB事業が伸長し増益
- CN事業 ストレージ関連製品の機器販売が好調 増収増益

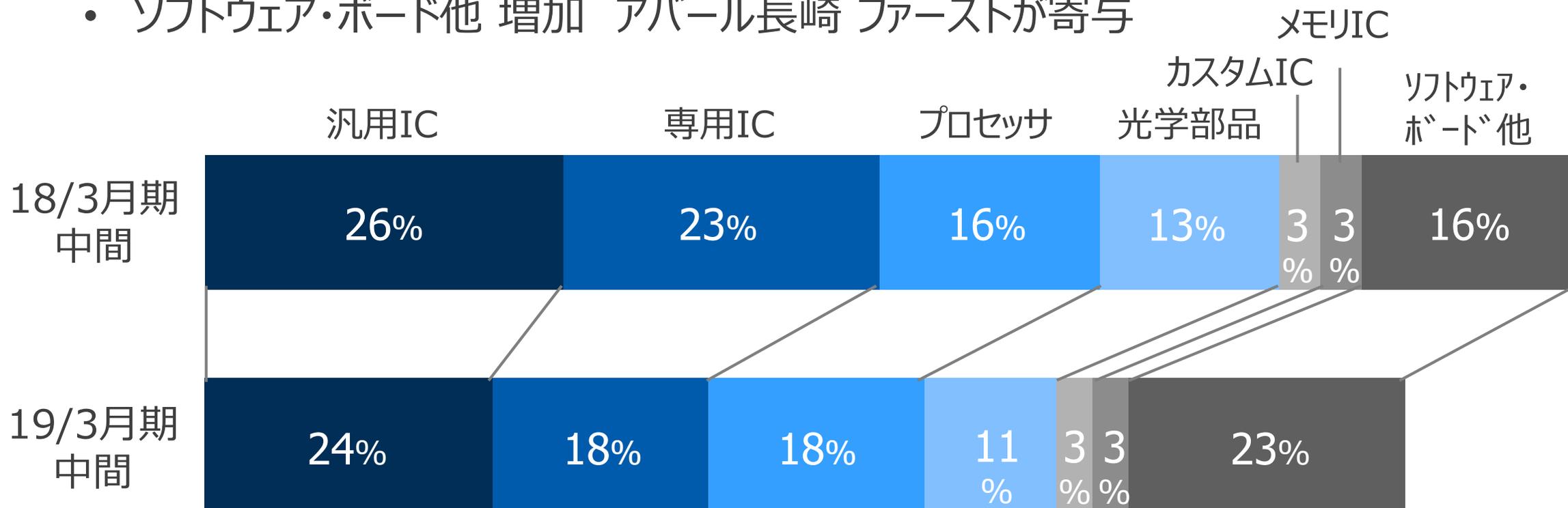
(百万円)

	2018年3月期 中間		2019年3月期 中間			
	売上高	セグメント利益	売上高	増減額	セグメント利益	増減額
半導体及び電子デバイス (EC)事業	68,468	691	59,653	▲8,814	882	191
コンピュータシステム関連 (CN)事業	7,963	291	9,111	1,148	508	216
合計	76,431	983	68,765	▲7,666	1,390	407

- ※ セグメント利益は経常利益
- ※ セグメント区分では、PB事業はEC事業に含まれております。

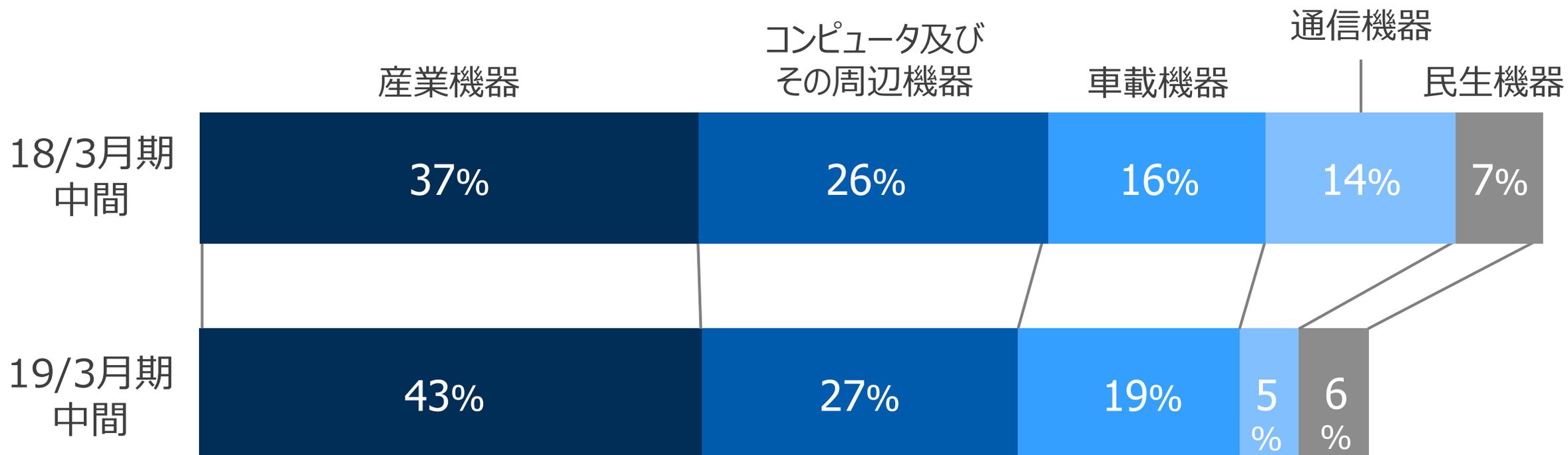
品目別売上高構成比

- 汎用IC 専用IC 光学部品 減少
- ソフトウェア・ボード他 増加 アバール長崎 ファーストが寄与



用途別売上高構成比

- 産業機器 車載機器 増加
- 通信機器 (スマートフォン) 減少



海外連結子会社 売上高 EC事業

- アジアの日系企業向け販売は堅調
- 通信機器（スマートフォン）向け減収

	2018年3月期 中間	2019年3月期 中間	増減額	増減率
海外連結子会社 売上高(百万円)	21,665	18,560	▲3,105	▲14.3%
海外連結子会社 売上高比率	31.6%	31.1%		
海外連結子会社 売上高(M\$)	195	168	▲27	▲13.8%
為替レート(円)	111.04	110.26		

PB事業 売上高 EC事業

- インレビウム DMS堅調
- アバーン長崎 半年間寄与（前年は3ヶ月間）
- ファースト 第2四半期より3ヶ月間寄与

(百万円)

	2018年3月期 中間	2019年3月期 中間	増減額	増減率
PB事業売上高	2,812	4,321	1,509	53.6%
売上高比率	4.1%	7.2%		

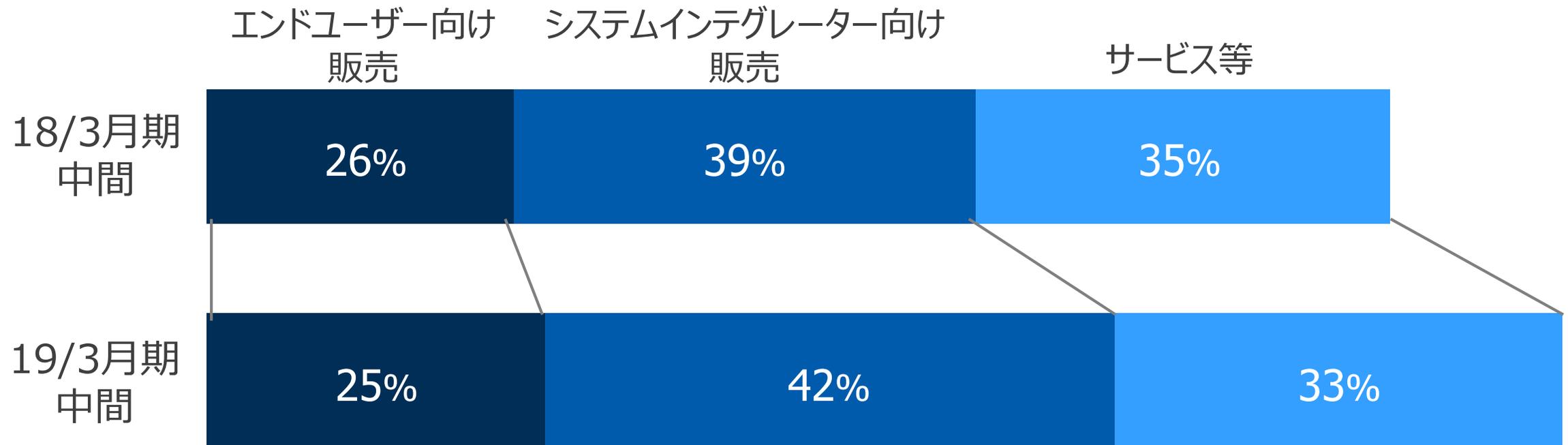
品目別売上高構成比

- データセンターの需要増によりストレージ関連製品の販売が増加



販売形態別売上高構成比

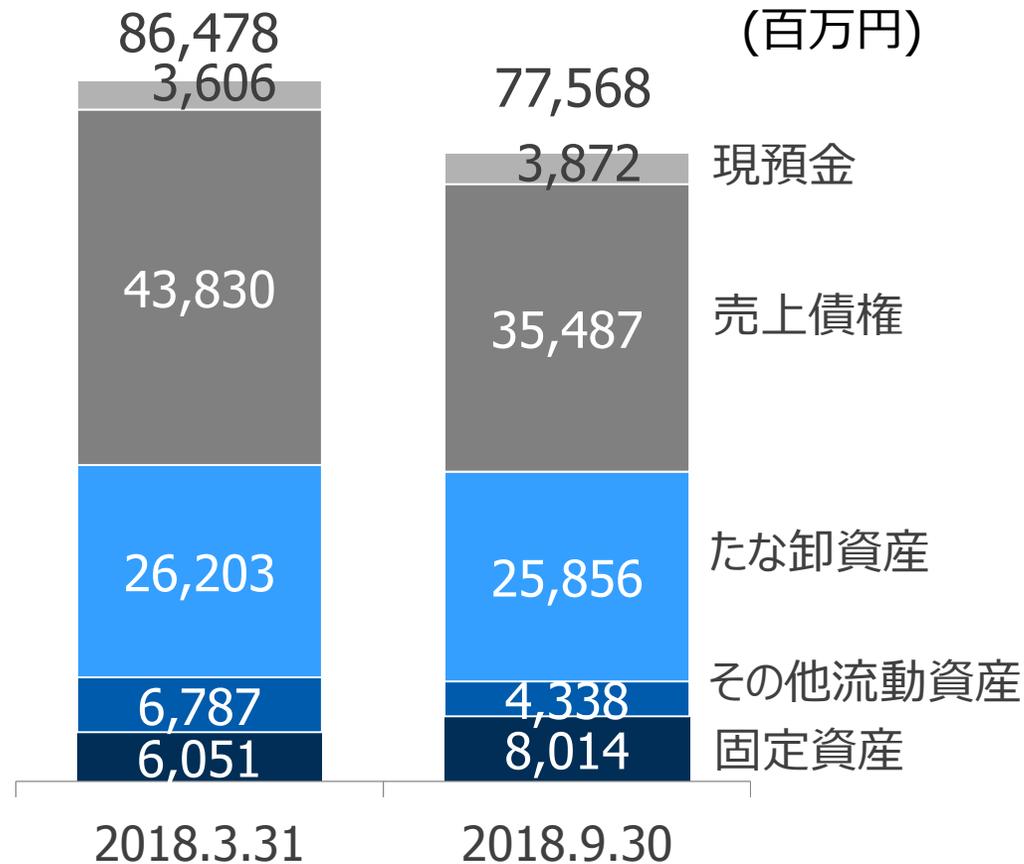
- システムインテグレーター向け販売はストレージ機器の販売が増加
- エンドユーザー向け販売・保守サービスも売上高は増加



貸借対照表

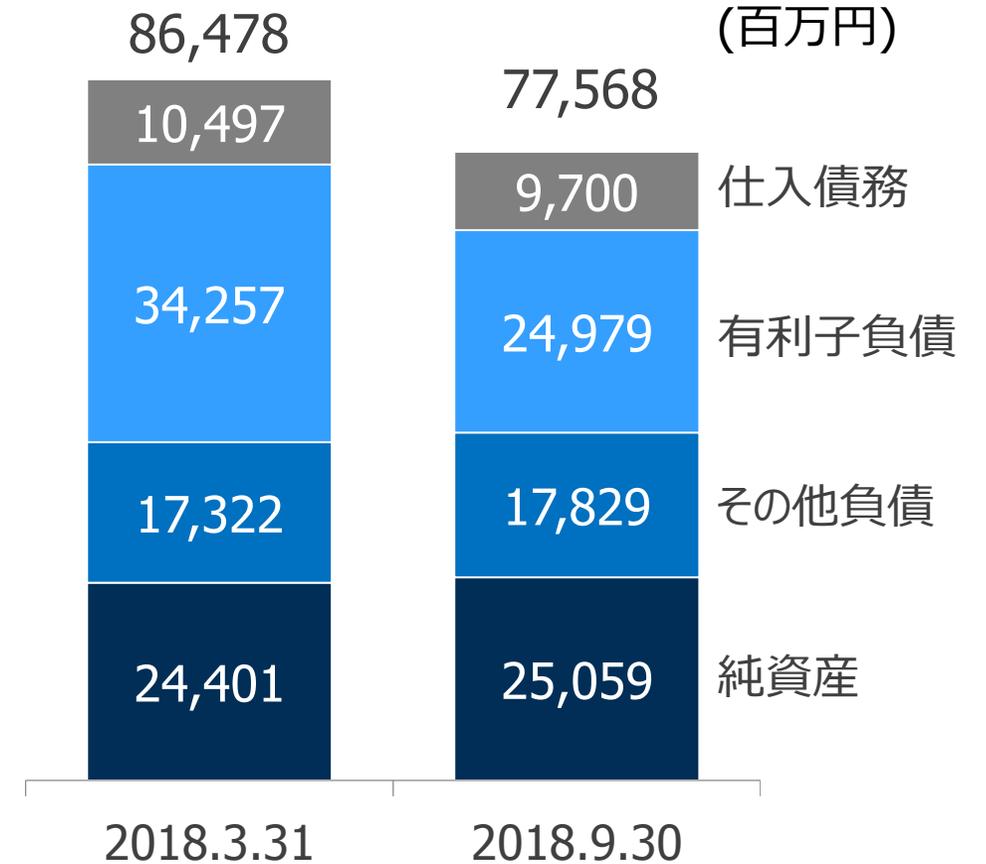
資産

- 回収の進捗により売上債権が減少
- ファーストの子会社化により固定資産が増加



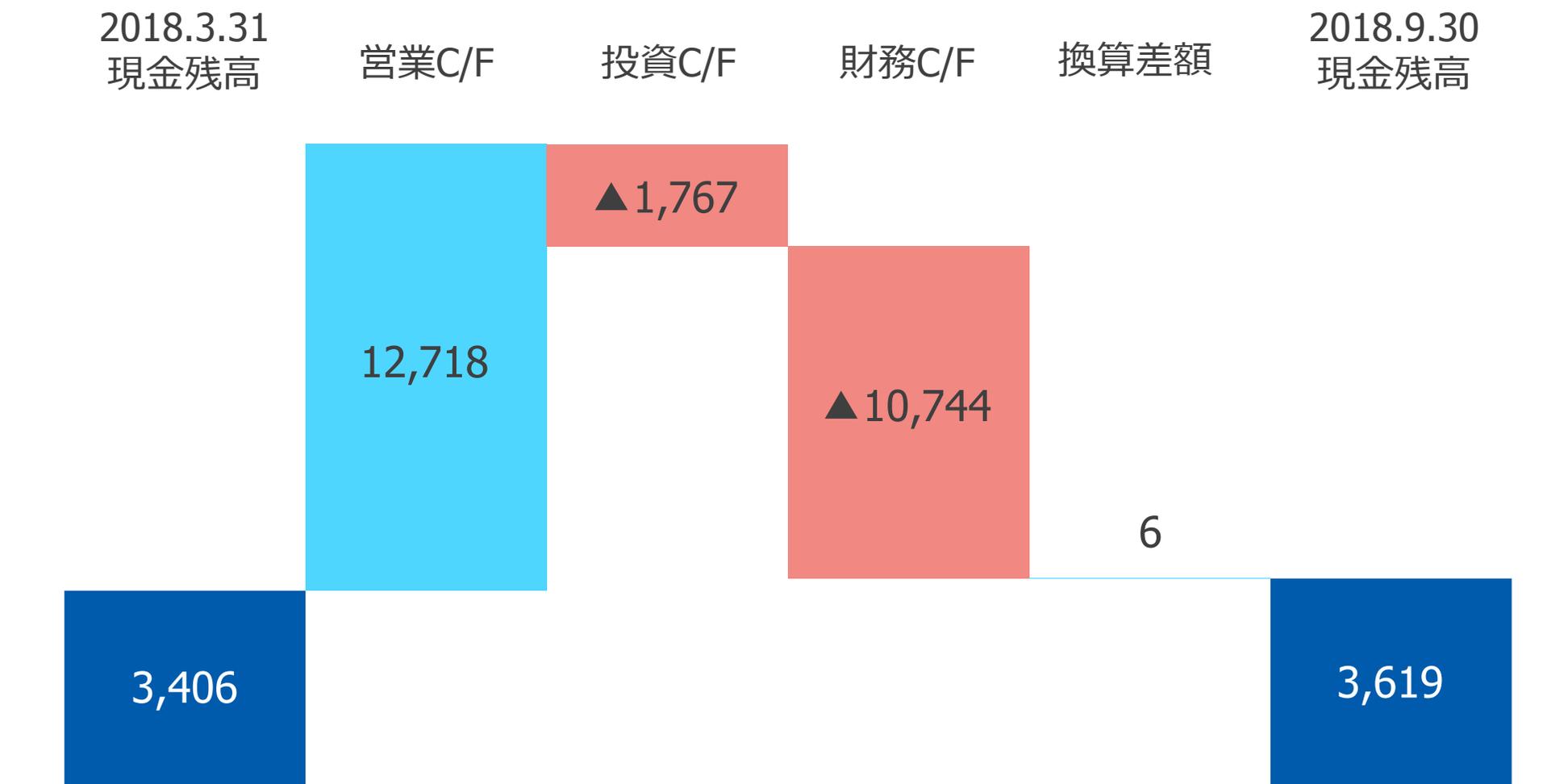
負債・純資産

- 運転資金の減少により借入金を返済したため有利子負債が減少



キャッシュ・フロー計算書

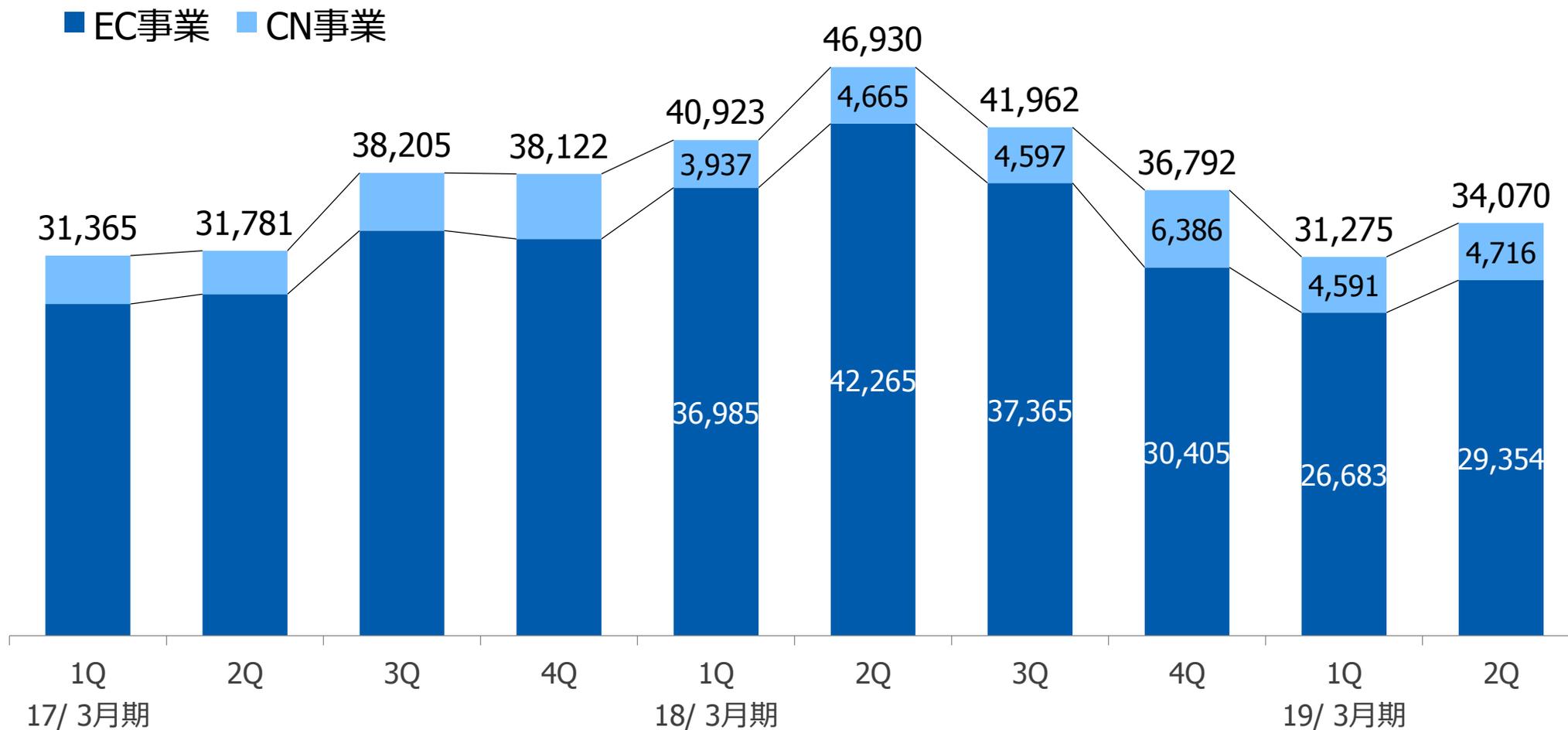
(百万円)



受注高の推移

- 受注高はほぼ想定通りに推移

(百万円)



※18/3月期 2Qより(株)アバール長崎の受注高を含む
※19/3月期 2Qより(株)ファーストの受注高を含む



業績予想 及び 施策

代表取締役社長 徳重 敦之

EC事業

- 半導体市場は減速懸念あるが下期は踊り場の状況を想定
- 下期は安定推移を見込む
- アバール長崎 ファーストが寄与しPB事業は伸長

CN事業

- 企業・官公庁のIT投資は堅調に推移
- 製品販売、保守ビジネスともに伸長
- 公共教育機関向けビジネスは前年並み

2019年3月期 業績予想

- 売上高 経常利益は 期初予想を据え置き
- 当期純利益は 投資有価証券売却益（特別利益）あり 期初予想から上方修正 (百万円)

	2018年3月期	2019年3月期			対前年比	
	通期	上期実績	下期予想	通期予想	増減額	増減率
売上高	159,841	68,765	71,235	140,000	▲19,841	▲12.4%
EC事業	142,076	59,653	59,947	119,600	▲22,476	▲15.8%
CN事業	17,764	9,111	11,289	20,400	2,636	14.8%
経常利益 (利益率)	2,637 (1.7%)	1,390	1,310	2,700 (1.9%)	63	2.4%
当期純利益 (利益率)	1,598 (1.0%)	894	1,106	2,000 (1.4%)	402	25.1%

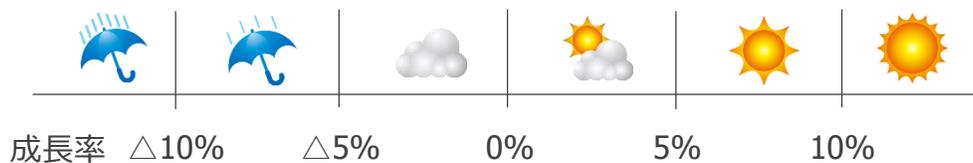
※ 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益
東京エレクトロン デバイス

事業環境

当社ビジネス環境	2019年3月期下期
全般	
FA・ロボット	
半導体製造装置	
車載機器	
通信機器	
PC周辺機器	

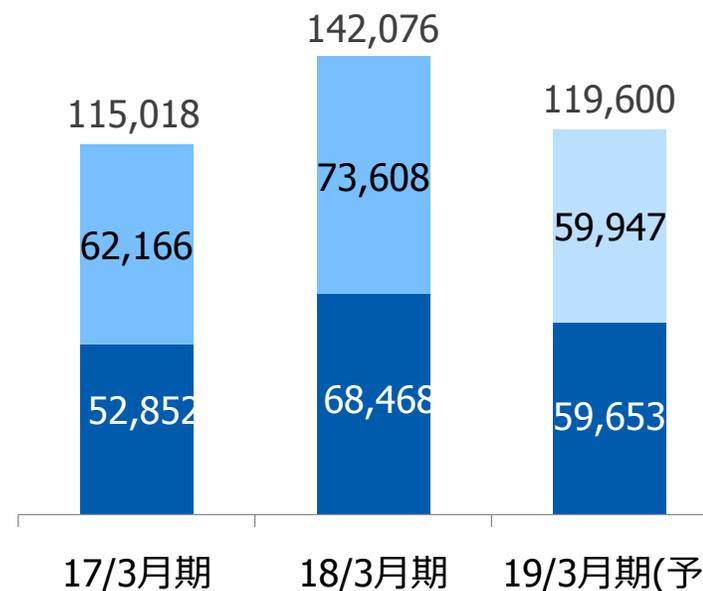
下期施策

- 顧客移管の推進
- 販売体制の強化及び効率化を追求
- 収益性の高いPB事業の推進

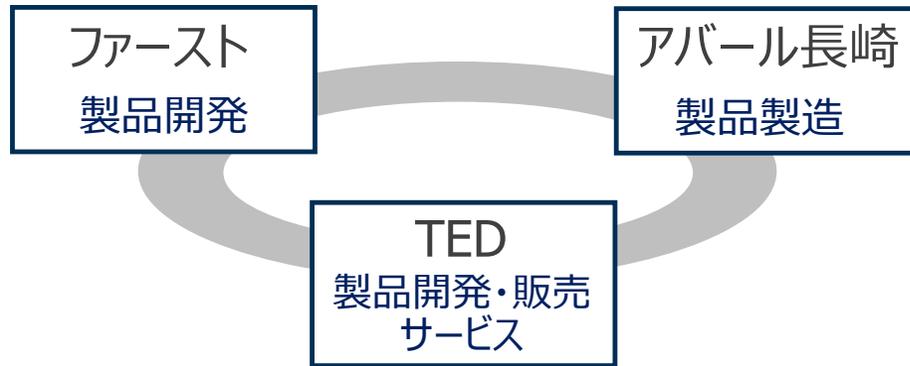


上記事業環境は、代理店契約を解消したアナログ・デバイス社を除いた傾向

売上高 (百万円)

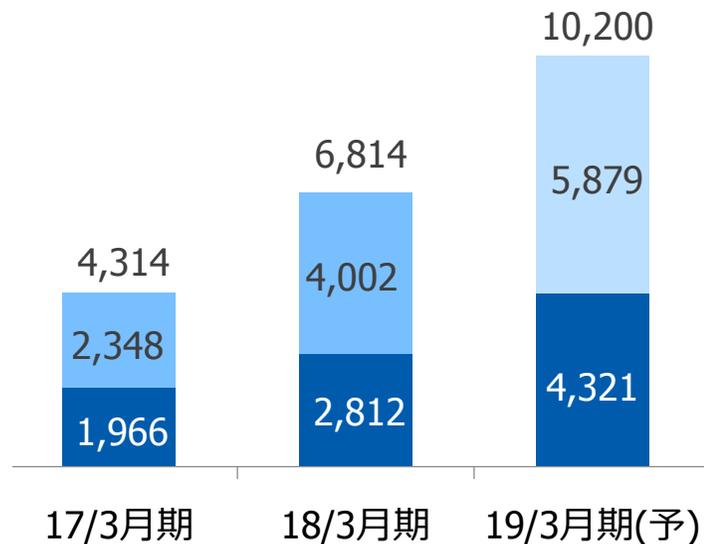


PB事業体制



売上高

(百万円)



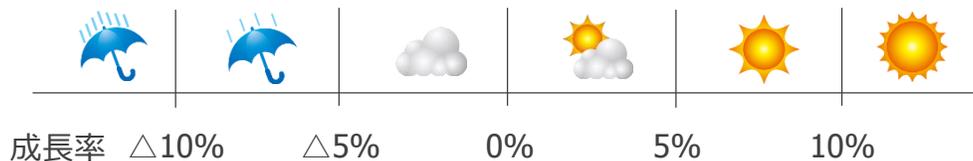
下期施策

3社相乗効果の発揮

- インレビウム (TED)
設計・量産受託サービス
- 産業機器 医療機器向け設計・量産受託案件の創出
- アバール長崎
TED 量産受託サービス案件の製造体制の強化
- ファースト
TED拠点を活用したFA向け画像処理装置の拡販

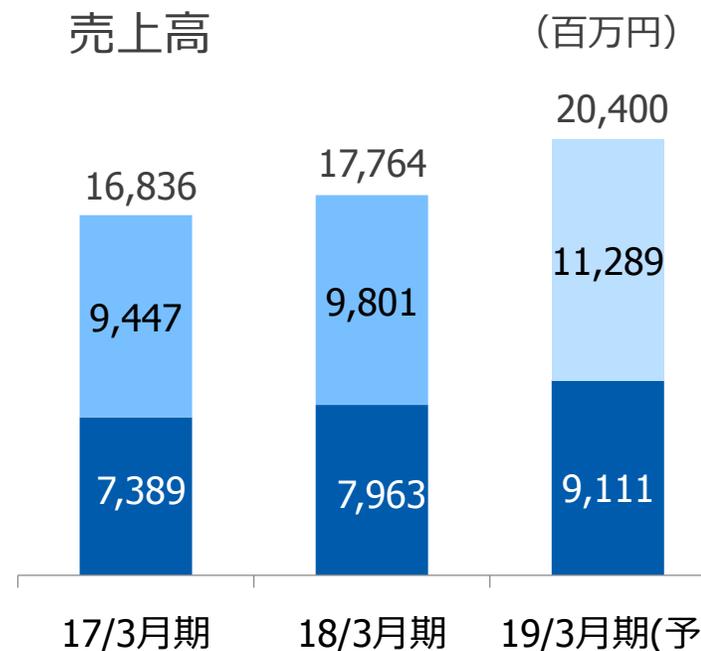
事業環境

当社ビジネス環境	2019年3月期下期
全般	
ネットワーク	
ストレージ	
セキュリティ	



下期施策

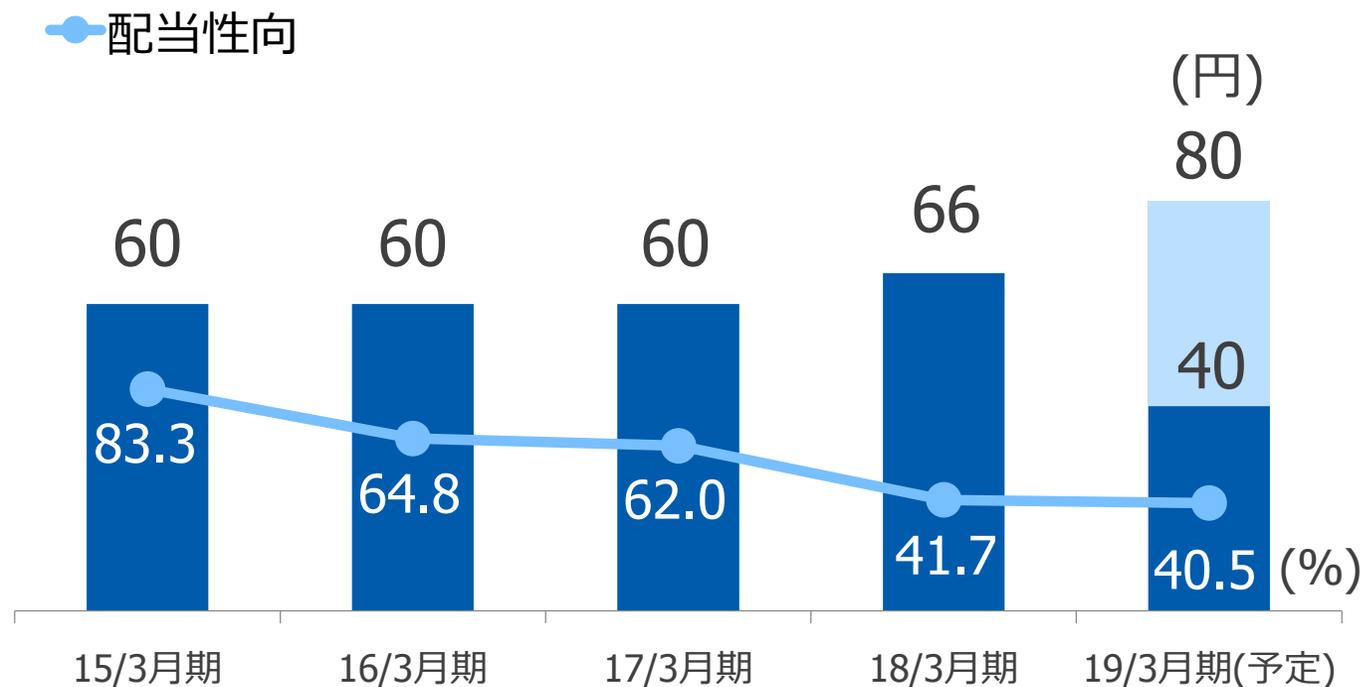
- 基幹プロダクトへの注力
- 新規導入製品の販売促進
- セキュリティオペレーションセンター開設 サービスの強化



1株当たり配当金

- 2019年3月期中間配当を増配 期末配当も増配予定

	2018年3月期	2019年3月期	
		期初予定	10月29日発表
中間	30円	36円	40円
期末	36円	36円	(予定) 40円

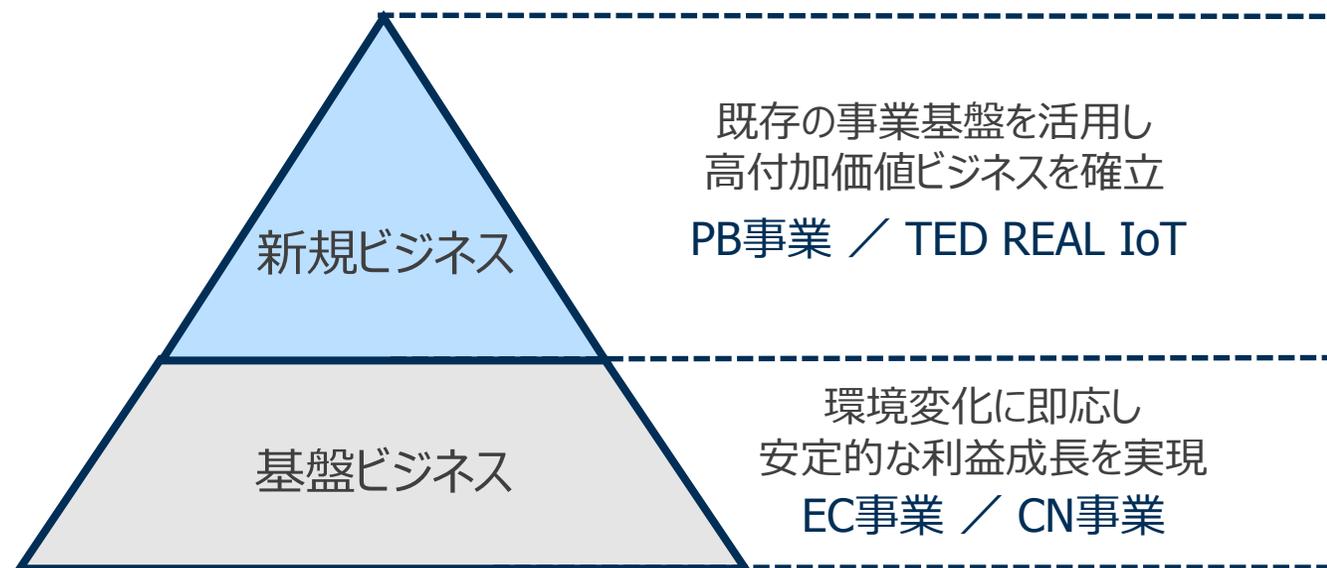


- 連結配当性向 40%を目安
- 安定的・継続的な配当の実施



中期経営計画 VISION2020

基本方針



VISION2020 Phase1
(2016年3月期～2018年3月期)

VISION2020 Phase2
(2019年3月期～2021年3月期)

新規ビジネス

成長に向けた事業インフラの整備

事業成長の実現

基盤ビジネス

製品・サービスの拡充

事業効率の改善

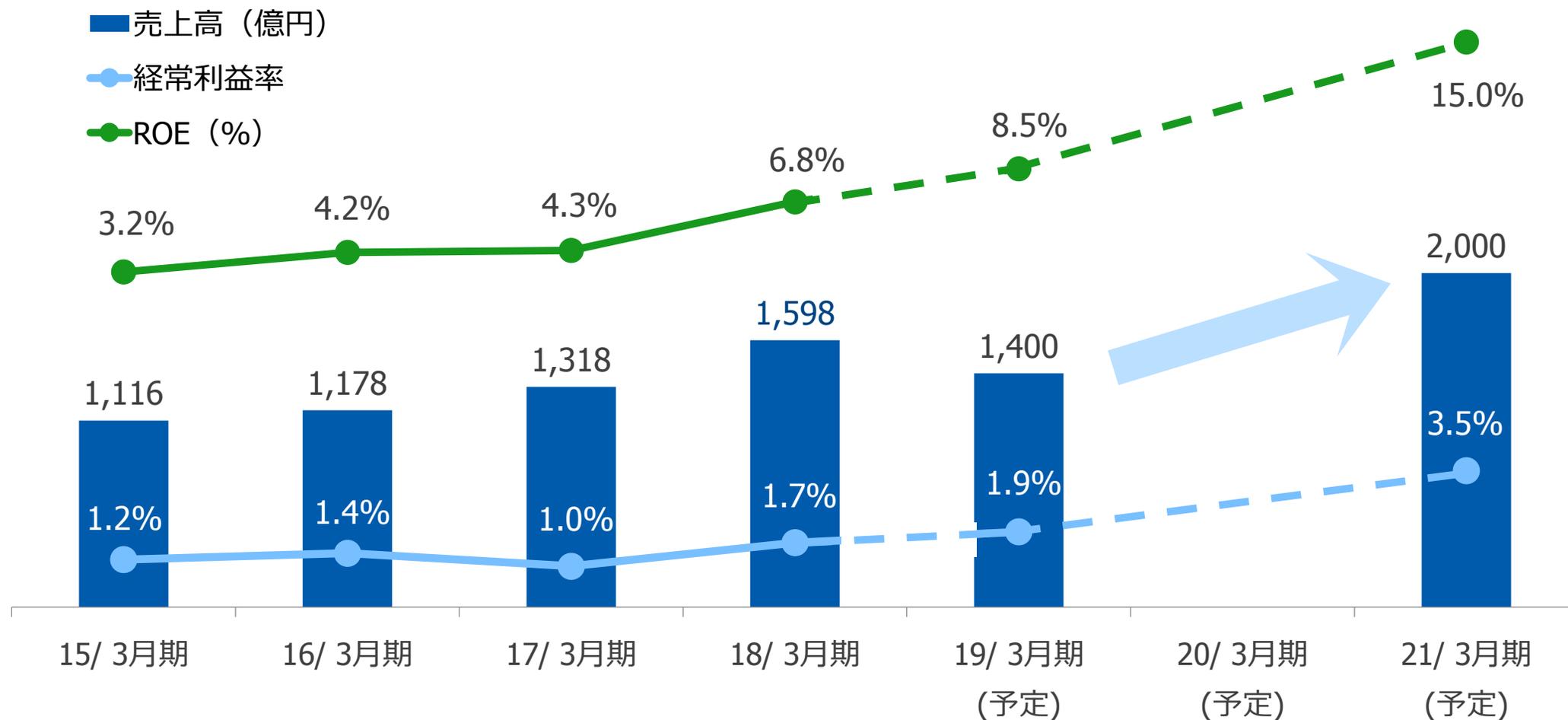
VISION2020見通し

	当初目標値	現時点での2021年3月期見通し
売上高	2,000～2,200億円	2,000億円
経常利益率	—	3.5%以上
ROE	10%	15%

事業別イメージ

	当初 想定 売上高比率 (経常利益率)	現時点の想定 売上高比率 (経常利益率)
EC事業	60% (2%)	80% (2%)
PB事業	20% (10%)	8% (10%)
CN事業	20% (10%)	12% (10%)

中期経営計画 VISION2020



Phase1
(2016年3月期～2018年3月期)

Phase2
(2019年3月期～2021年3月期)

未進出領域・地域へ事業を拡大

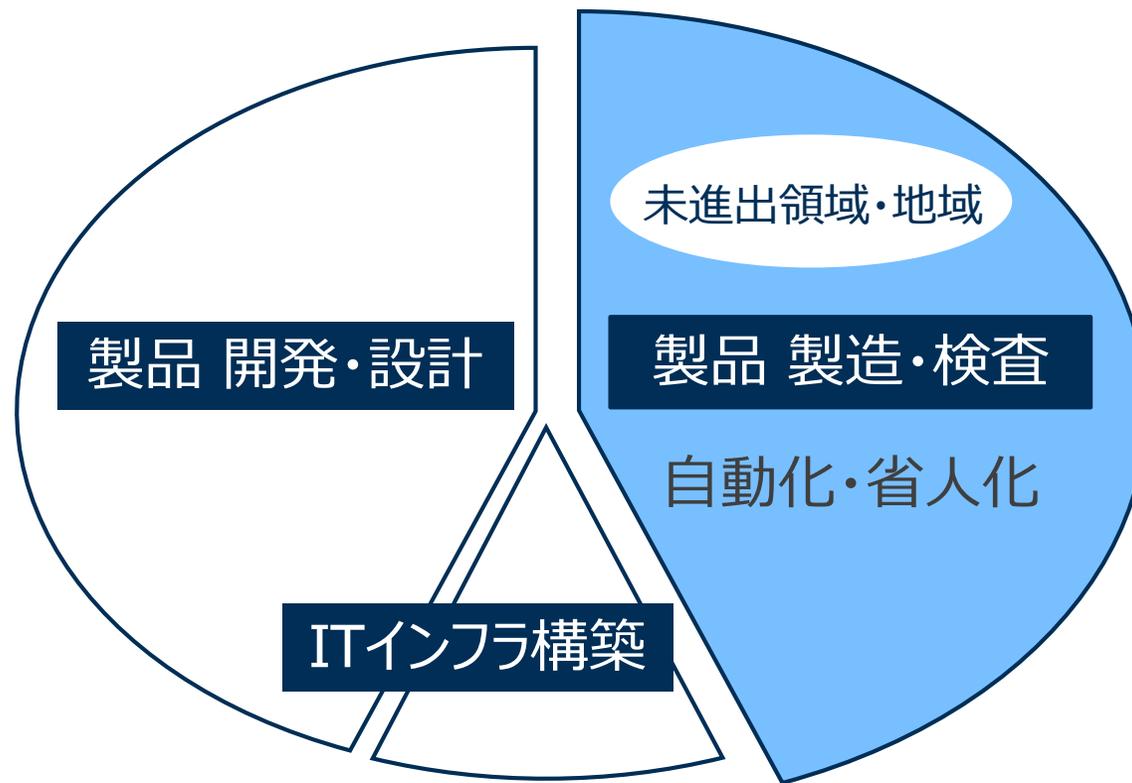
EC事業

PB事業

設計・量産受託サービス

産業・医療・車載機器

株式会社アバール長崎
半導体製造装置向け機器



PB事業

TED REAL IoT
IoT向け異常判別
プログラム生成マシン
クラウドソリューション

株式会社ファースト
FA向け画像処理装置
ロボットビジョンシステム

CN事業

製造業顧客 生産製造部門

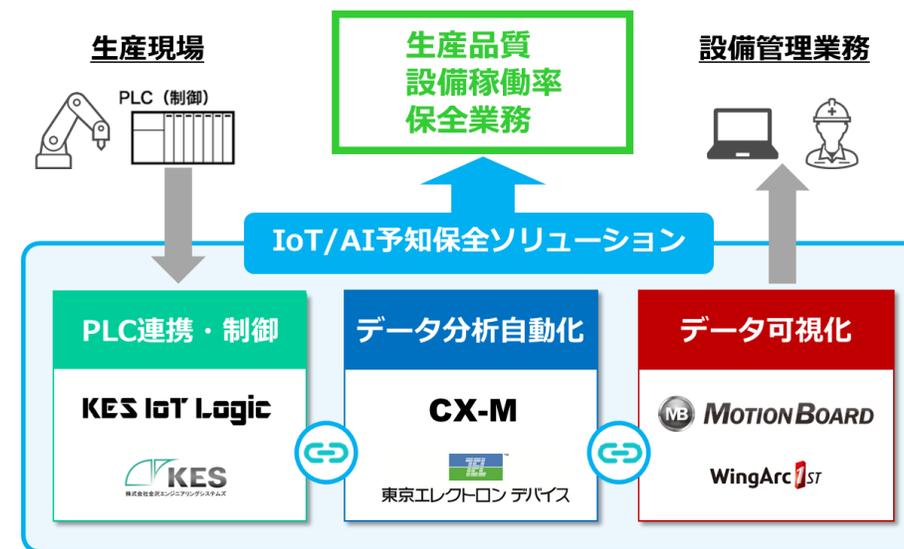
自動化・省人化に向けて
IoT × AI 画像処理 活用を検討



PB事業

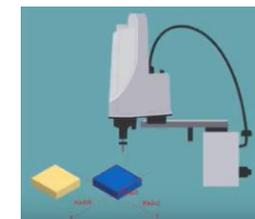
TED REAL IoT

製造業向けのIoTである
生産・製造設備の故障予知分野に注力



ファースト

画像処理を用いた検査、位置決め、
3次元計測技術などを提供





本資料に関する注意事項

本資料で述べられている将来に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに構築されたものです。当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な要因により、今後の業績見通しが本資料と異なる可能性があることをあらかじめご了承ください。

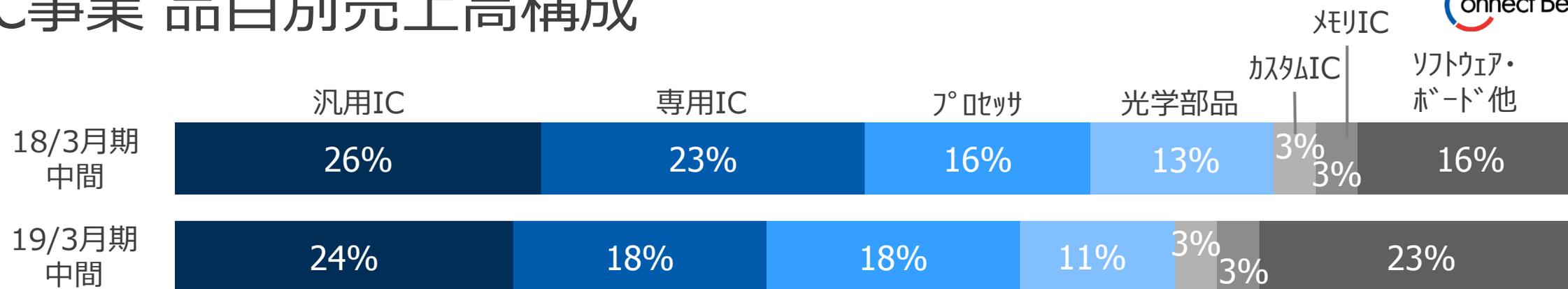
また、大きな変更がある場合は、その都度発表していく所存です。

本資料に掲載された会社名、製品名、サービス名ならびにロゴは、各社の商標または登録商標です。



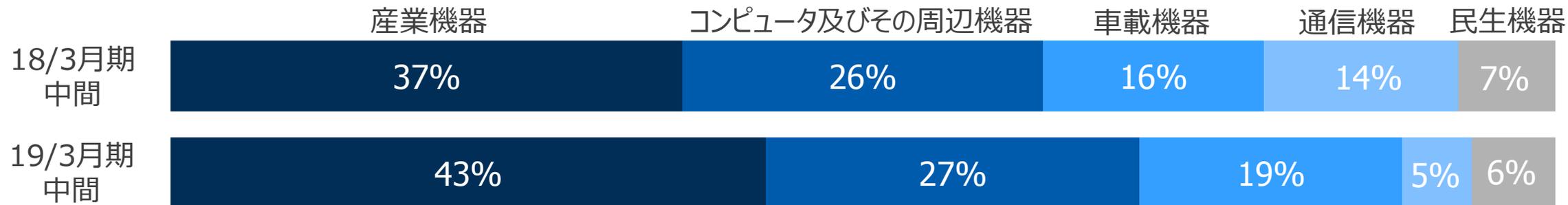
補足資料

EC事業 品目別売上高構成



品目	増減率	主な要因	主な仕入れ先
汎用IC	▲18.8%	代理店契約解消による減少	TI / NXP
専用IC	▲32.3%	代理店契約解消に伴いスマートフォン減少	TI / ブロードコム / ルネサス / サイプレス / インビディアム
プロセッサ	▲4.8%	車載増加 基地局 POS減少	NXP/ インテル / TI / サイプレス(スパンション含む)
光学部品	▲30.3%	スマートフォン減少	ブロードコム
カスタムIC	1.0%	産業機器増加	ソシオネクスト / ラティス / インビディアム
メモリIC	7.2%	産業機器増加	サイプレス(スパンション含む)
ソフトウェア・ボード他	25.9%	アパール長崎、ファーストが寄与し増加	マイクロソフト / インテル / コーセル / インビディアム

EC事業 用途別売上高構成



用途	増減率	主なアプリケーション	当社の傾向
産業機器	0.1%	医療機器 放送機器 監視カメラ FA機器 計測器 工業用プリンター 工作機械 半導体製造装置 インバータ	全般的に好調 アバール長崎 ファースト増加 代理店契約解消に伴い汎用IC減少
コンピュータ及びその周辺機器	▲10.5%	複合プリンタ プロジェクタ OA機器 ストレージ サーバー PC及び付属機器 POS	POS向けプロセッサなど 全般的に減少
車載機器	2.3%	ナビゲーション カーオーディオ ホンダ系	光学部品増加 代理店契約解消に伴い汎用IC減少
通信機器	▲69.6%	携帯電話 スマートフォン ルータ 伝送装置 基地局	スマートフォン光学部品減少 代理店契約解消に伴い専用IC減少
民生機器	▲11.4%	デジタルカメラ デジタルビデオカメラ TV DVD AV機器 家庭用ゲーム リモコン 白物家電	全般的に減少傾向

CN事業 品目別売上高構成



品目	増減率	主な要因	主な仕入れ先
ネットワーク 関連製品	▲0.6%	主要製品の機器販売、保守ともに堅調	アリストネットワーク エクストリームネットワーク F5ネットワーク社
ストレージ 関連製品	36.4%	システムインテグレーション向けストレージスイッチ、データセンター向けフラッシュストレージ製品の機器販売好調	ブロードコム DELL EMC (アイロン データメイン) ピュアストレージ
ソフトウェア他	23.8%	仮想化基盤プラットフォーム増加	ニュータニクス

	品目	主な製品	機能
EC事業	汎用IC	アナログIC ロジックIC	色々な用途に共通に使用されるIC
	専用IC	画像処理用IC 通信・ネットワーク用IC	特定用途向けに作られた専用IC
	プロセッサ	CPU DSP	電子機器の頭脳 演算機能・制御機能
	光学部品	LED フォトカプラ	電気を光に変換して使用する電子部品
	カスタムIC	ASIC PLD	お客様の仕様に応じて作られる固有IC
	メモリIC	SRAM FRAM MRAM フラッシュメモリ	記憶用IC 書込み読出しが可能なものや 読出しのみのものがある
	ソフトウェア・ボード ^① 他	ソフトウェア ボード 電源 コネクタ	企業向け産業機器に組み込まれるソフトウェア プリント配線基板上にIC 電源 コネクタなどの部品を 実装した製品（ボード）
CN事業	ネットワーク関連製品	ネットワーク負荷分散装置 セキュリティ関連機器	インターネットの接続負荷の分散、 ネットワーク上のセキュリティを強化
	ストレージ関連製品	SANスイッチ フラッシュストレージ	大容量データに高速に接続、記憶する
	ソフトウェア他	組み込みデータベース 仮想化基盤プラットフォーム	データベース管理、クラウド環境の管理